



2023年3月期

決算説明資料

2023年5月25日

証券コード:3741

 **株式会社セック**
SEC Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

目次

- 事業分野
- 2023年3月期 決算概要
- 2024年3月期 重点テーマ
- 2024年3月期 今期業績見通し
- サステナビリティへの取組み

事業分野 (BF)

会社理念「社会の安全と発展のために」

社会の安全と発展にかけがえのない
一流のソフトウェア会社となる

セックは、1970年の創業以来、コンピュータシステムの普遍的な設計技術である「リアルタイム技術」を中核としています。この「リアルタイム技術」が必要とされる分野で、「社会の安全と発展」に貢献する分野が、当社の事業分野です。社会基盤システムと宇宙先端システムの2つの創業来の事業分野に、時代の変化とともに、新しい事業分野が加わっていきました。

これからも、セックの事業分野はますます拡大していきます。



事業分野 | 社会基盤システム

世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発しています。



高度交通システム
ETC/VICS(渋滞情報)



位置情報サービス
ロードサービス・緊急通報



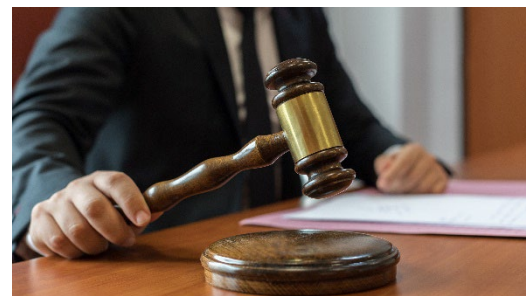
緊急医療支援システム



医薬品・医療機器
安全対策支援システム



防衛関連システム



裁判所関連システム



官公庁向けシステム
家畜個体把握・各種統計・防災関連

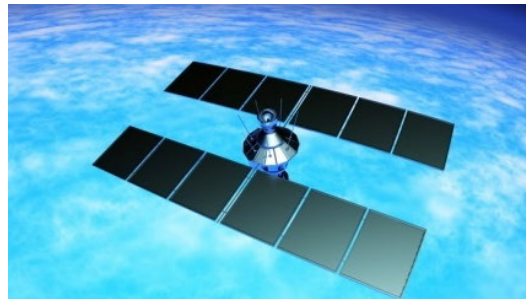


環境エネルギー
マネジメントシステム

事業分野 | 宇宙先端システム

人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発と、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発をしています。



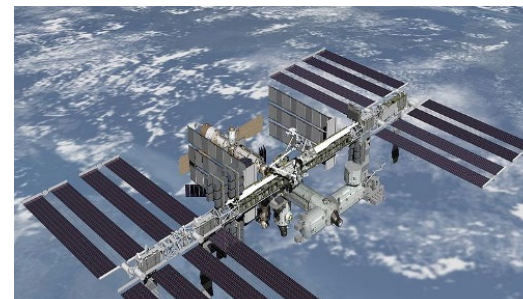
衛星搭載システム

ひので、はやぶさ2など



スペースデブリ除去衛星

フライト制御ソフト開発



国際宇宙ステーション

「きぼう」日本実験棟実験装置



天体望遠鏡制御システム

すばる望遠鏡など



ロボット標準化技術

RTミドルウェア、ROS



車両自動走行



自動制御ソフトウェア

船舶、ドローン、トラクター



研究機関向けシステム

NICT、JAXA、大学など

事業分野 | モバイルネットワーク・インターネット

次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア



キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT関連システム、XR(クロスリアリティ)など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発しています。



2023年3月期

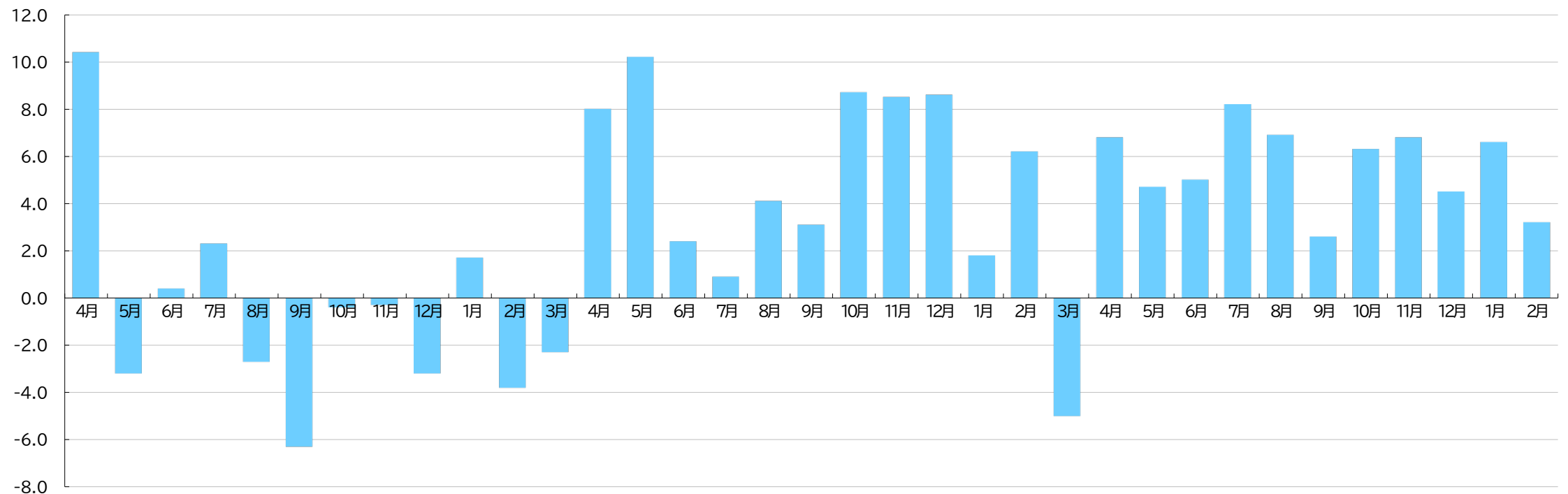
決算概要

事業環境

2023年3月期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)

(単位:%)



2022年4月以降の月別売上高は前年同月比で増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される。

2023年3月期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前期比	利益率
売上高	7,488	+14.2%	
営業利益	1,215	+14.4%	16.2%
経常利益	1,278	+15.5%	17.1%
当期純利益	878	+12.6%	

受注高、受注残高ともに過去最高

	当期（百万円）	前期比
受注高	8,053	+12.0%
受注残高	3,762	+17.7%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

XR(クロスリアリティ)関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加したことに加え、官公庁向けの開発も増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となった。

損益計算書

	2022年3月期 (百万円)	2023年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(1月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	6,560	7,488	114.2	7,300	102.6
売上原価	4,585	5,246	114.4	5,150	101.9
売上総利益	1,974	2,241	113.5	2,150	104.3
販売管理費	912	1,026	112.5	970	105.8
営業利益 (営業利益率)	1,062 (16.2%)	1,215 (16.2%)	114.4	1,180 (16.2%)	103.0
経常利益 (経常利益率)	1,107 (16.9%)	1,278 (17.1%)	115.5	1,240 (17.0%)	103.1
当期純利益	780	878	112.6	860	102.2

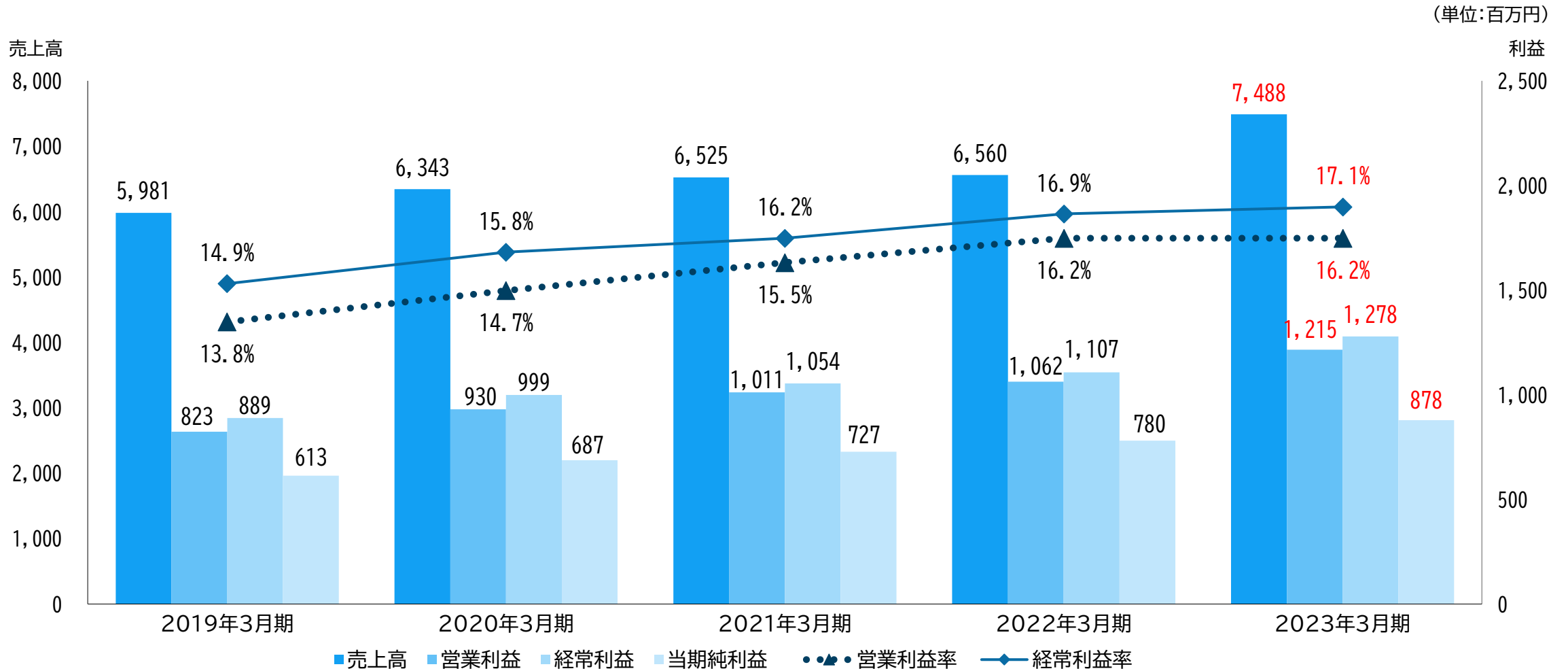
売上原価 外注費が大幅に増加（外注費 23.5億円、前期比20.0%増／売上高外注比率31.4%、前期29.9%）、社員数の増加などにより人件費が増加

販売管理費 オフィス増床により家賃が大幅に増加、知名度向上のためのIR・PR強化により手数料が大幅に増加
研究開発費は66百万円で、前期比で23.7%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が発生、受取出向料が大幅に増加

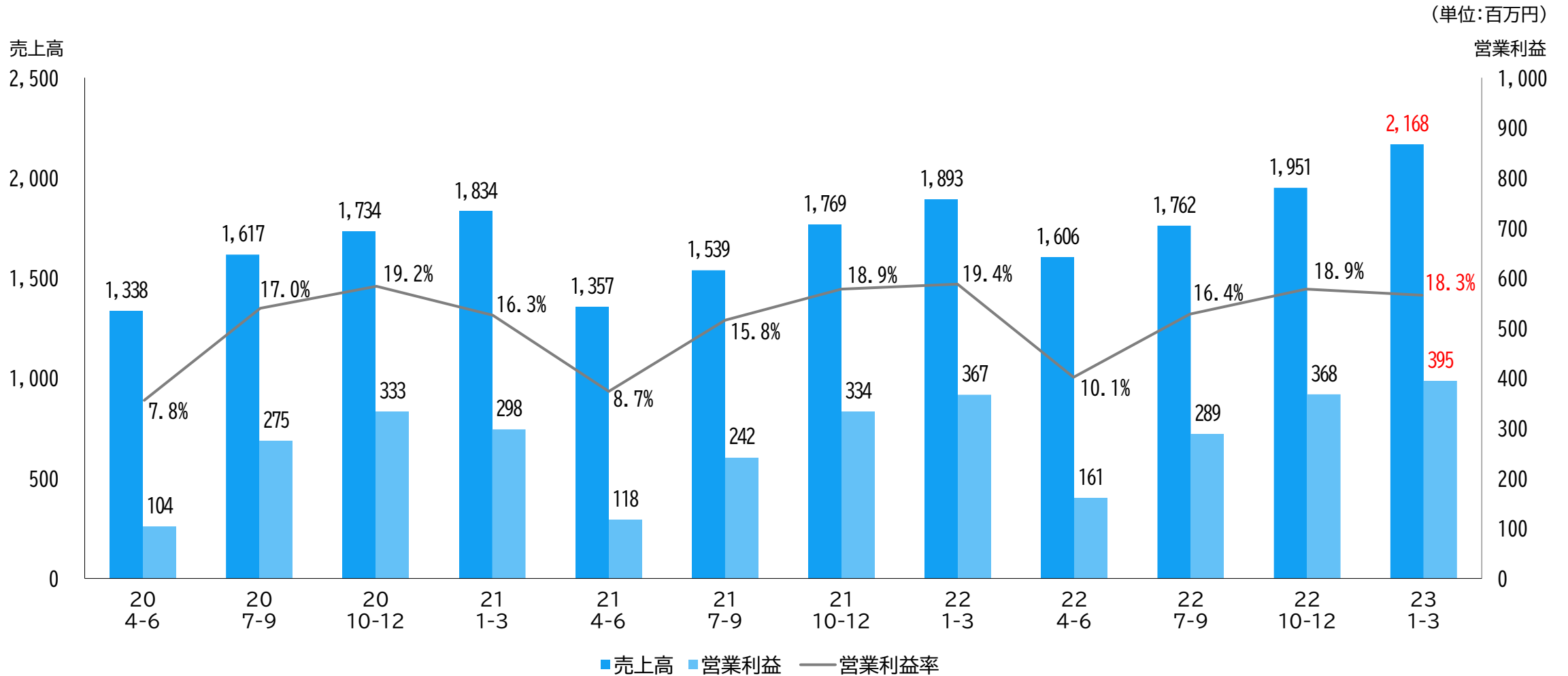
決算業績推移(過去5年)

6期連続の増収増益で、売上高、利益ともに過去最高



四半期業績推移(PL)

前年度第3四半期から、6四半期連続の増収増益

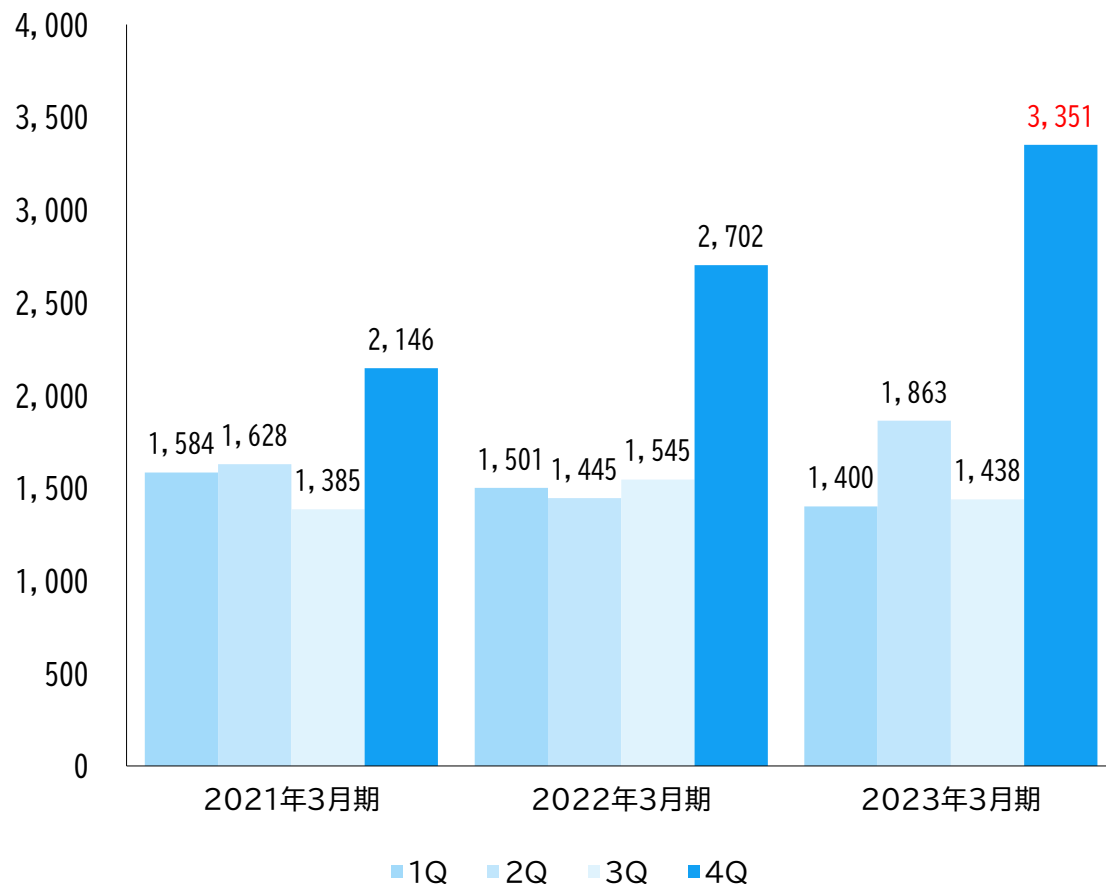


四半期業績推移(受注状況)

受注高は第4四半期で過去最高、受注残高は全ての四半期で過去最高

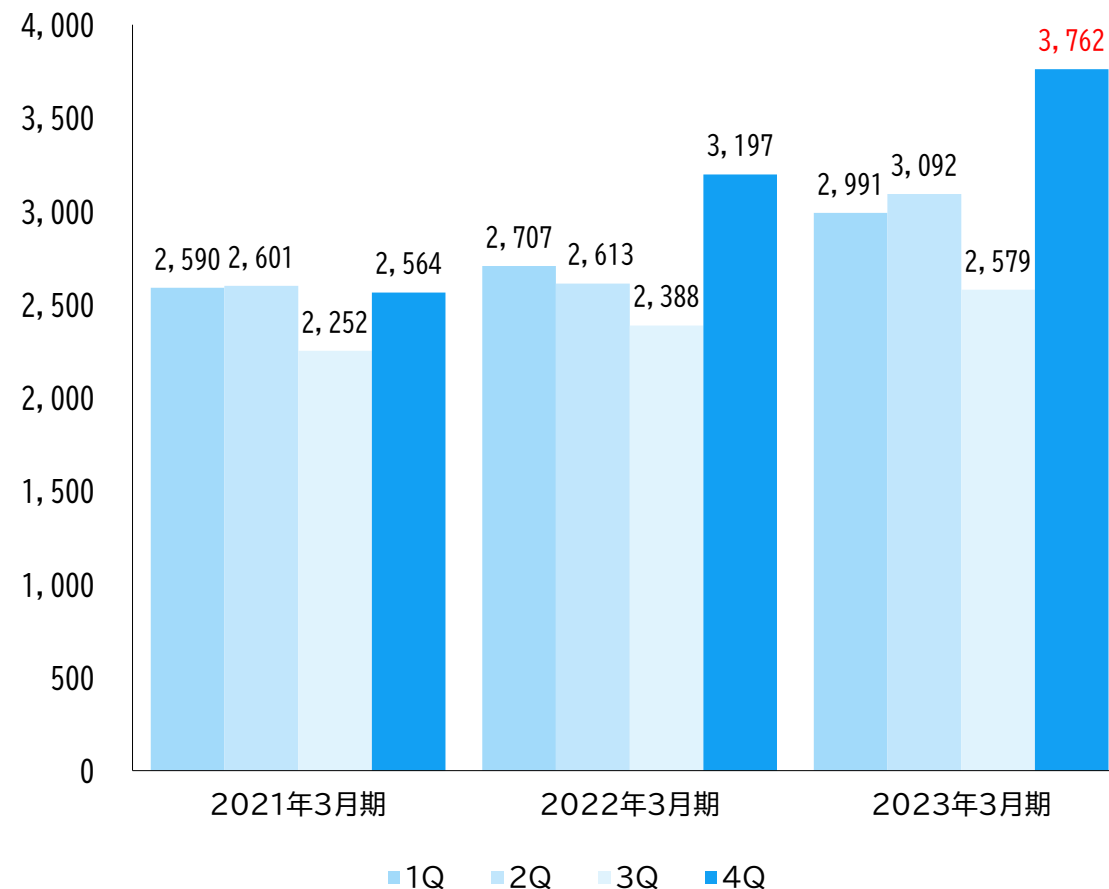
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



BF別の状況

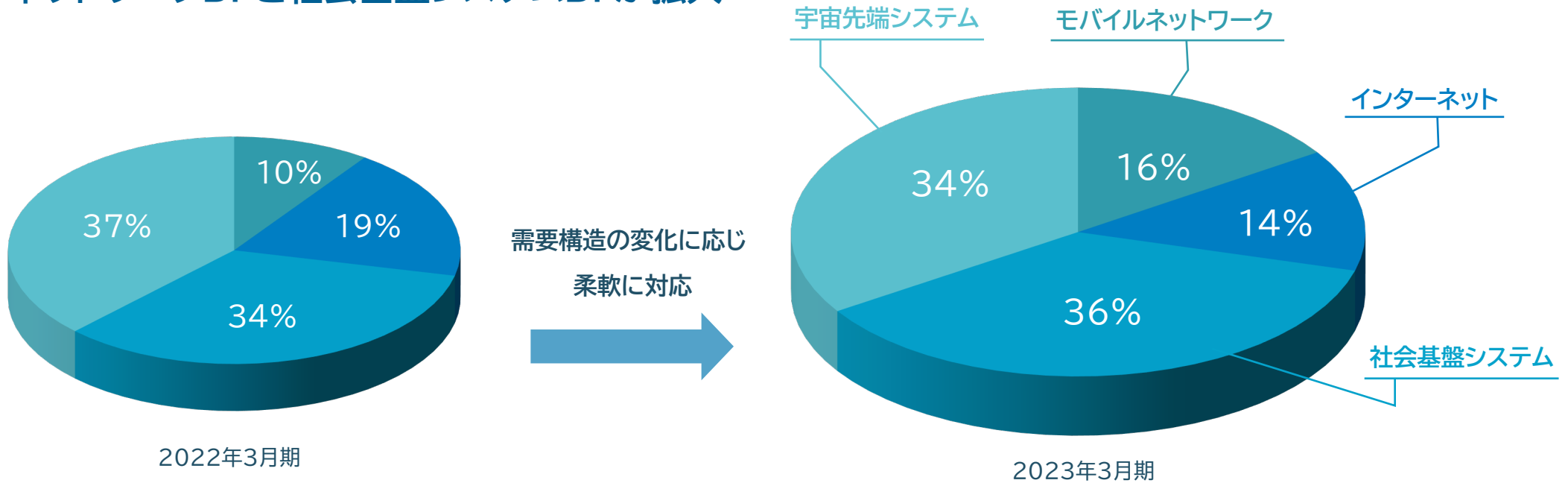
モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期		2023年3月期		前期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
モバイルネットワーク	641	9.8	1,173	15.7	182.8
インターネット	1,232	18.8	1,017	13.6	82.6
社会基盤システム	2,218	33.8	2,737	36.5	123.4
宇宙先端システム	2,467	37.6	2,560	34.2	103.8
合計	6,560	100.0	7,488	100.0	114.2

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加
- インターネットBFは、非接触ICを利用した開発が大幅に増加したが、民間企業向けの大型案件の開発が終了
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁向けの開発が好調
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行の研究開発案件は計画変更により減少したが、サービスロボットや宇宙関連の開発が増加

BF別売上構成比

モバイルネットワークBFと社会基盤システムBFが拡大



モバイルネットワークBF ↑

XR(クロスリアリティ)関連やスマートコンストラクション関連の開発が大幅に増加

インターネットBF ↓

非接触ICを利用した開発が大幅に増加したが、民間企業向けの大型案件の開発が終了

社会基盤システムBF ↑

環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁向けの開発が好調

宇宙先端システムBF ↓

サービスロボットや宇宙関連の開発が増加し、BFの売上高は増加したが、全体構成比では減少

BF別受注状況

モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期		2023年3月期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	728	246	1,213	166.6	285	116.1
インターネット	1,156	290	970	83.9	243	83.6
社会基盤システム	2,766	2,004	3,351	121.2	2,618	130.7
宇宙先端システム	2,543	656	2,519	99.0	615	93.7
合計	7,193	3,197	8,053	112.0	3,762	117.7

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは3,191百万円、前期(2,639百万円)と比較し20.9%の増加)

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)関連やスマートコンストラクション関連の受注が大幅に増加
- インターネットBFは、前期の民間企業向けの大型案件終了による反動と社内資源の配分調整により受注が減少
- 社会基盤システムBFは、環境分野や福祉・健康分野をはじめとした官公庁案件が増加
- 宇宙先端システムBFは、宇宙関連の受注が増加したものの、車両自動走行の研究開発案件が計画変更により減少

期末貸借対照表

	2022年3月末日(百万円)	2023年3月末日(百万円)	増減(百万円)
流動資産	6,652	7,043	390
固定資産	1,772	2,141	368
流動負債	1,195	1,391	196
固定負債	138	190	51
純資産	7,090	7,602	511
総資産	8,425	9,185	759
自己資本比率	84.2%	82.8%	▲1.4%
流動比率	556.5%	506.1%	▲50.4%
固定比率	25.0%	28.2%	3.2%

流動資産 売上債権の増加、現金及び預金の減少などによる増加

固定資産 投資有価証券の取得、増床による有形固定資産の増加などによる増加

流動負債 買掛金、未払消費税等、賞与引当金の増加などによる増加

キャッシュ・フロー計算書

	2022年3月期 (百万円)	2023年3月期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	642	526	▲116
投資活動によるキャッシュ・フロー	28	▲303	▲332
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲290	▲381	▲90
現金及び同等物の増減額	380	▲158	▲539
現金及び同等物期末残高	3,234	3,076	▲158

営業キャッシュ・フロー 売上債権、法人税等支払額が増加したことなどによる収入減

投資キャッシュ・フロー 投資有価証券の取得、増床による有形固定資産の取得などによる支出増

財務キャッシュ・フロー 自己株式の取得、配当金支払額の増加などによる支出増

2024年3月期

重点テーマ

先端技術を窮め、 オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」

1. 1社完結の研究開発以外に、大学や国、企業の研究機関、ハードウェアベンダとの最先端技術でのアライアンスを積極的に推進します。
2. 生成系AI関連の研究を進めるとともに、AIの活用に伴うリスクへの対策としてAIガバナンスに関する研究を開始します。

「高付加価値化」

1. 情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案します。
2. 技術だけではなく、その土台となるドメイン知識やビジネススキルを身に付け、お客様の懐に深く入り込み、お客様ビジネスに貢献します。

「人的資本投資」

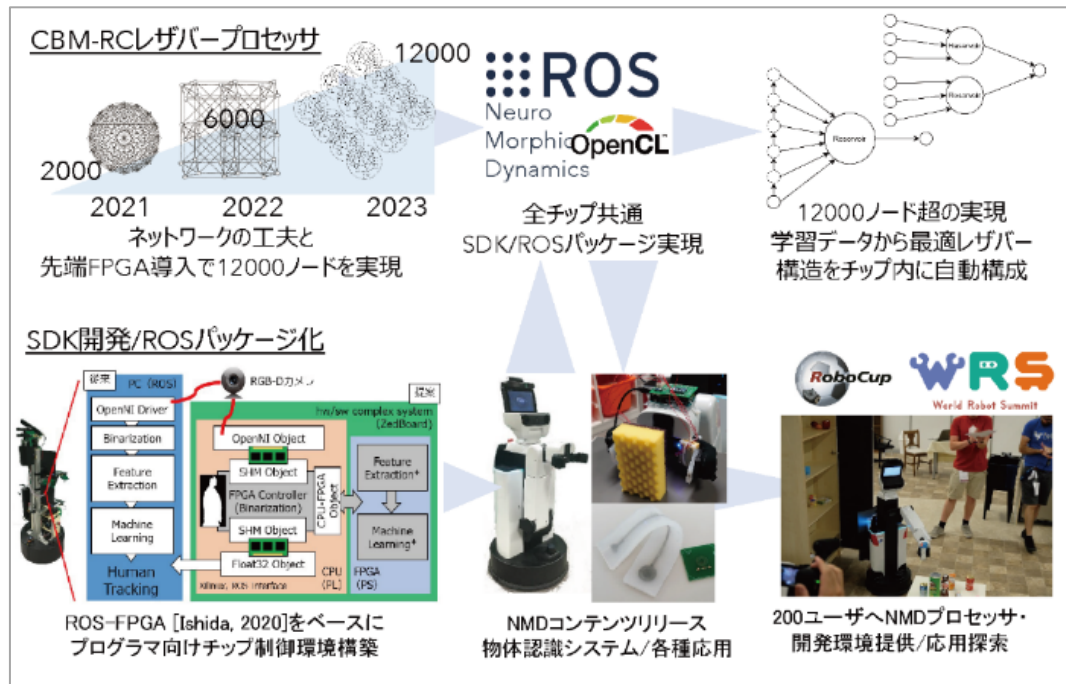
1. AI、デザイン思考、セキュリティ、クラウドを中心に技術教育を強化します。
2. ロボットやFPGAなどハードウェアにも強い人材育成を強化します。

研究開発: エッジコンピューティング

エッジAIチップの開発

「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」
(NEDO公募事業)

2022年4月にスタートした本プロジェクトでは、人の脳の仕組みを数式化した機械学習アルゴリズムのひとつであるレザバー計算モデルを実行する集積回路チップ(エッジAIチップ)を開発し、AIを搭載したエッジデバイスとしてロボットやIoT分野に応用し、実用化を目指しています。



技術解説書「高位合成によるFPGA回路設計」 を執筆

ソフトウェア技術者向けとしては初のFPGA技術解説書である「高位合成によるFPGA回路設計」を、九州工業大学、株式会社アイヴィスと共同で執筆しました。
(2022年3月1日:森北出版から出版)



MR (Mixed Reality: 複合現実) とは、現実世界とデジタル世界の境界をなくし、現実世界からデジタル世界に直接アクセスすることができるようにする技術です。当社は2017年よりJAXAとの共同研究でMRの研究開発をスタートし、2018年には「Microsoft Mixed Realityパートナープログラム」のパートナー認定を取得しました。



製造業、学術研究での活用に加え、 消費者向けのサービス開発が拡大

製造業、学術研究での活用が拡大傾向

- 学術研究でのシミュレーション、設計支援といった従来の活用分野に加え、製造業など実用分野でのMR技術の活用が拡大。
- 開発事例としては、整備工場での組み立て作業支援、車体への塗装支援、大型機器取扱いの教育訓練システムなど。製造現場で、作業員が装着したMRデバイスを通して対象機器に指示やシミュレーション結果を投影する。

通信事業者が提供するXRサービスの開発が拡大

デジタルヒューマン、デジタルツインなど、消費者向けのサービスや機能の開発が主流。

蓄積した研究開発成果とマイクロソフト社との アライアンスで、MRを核としたビジネスを推進

次世代可視化技術の研究開発 (JAXA共同研究)

次世代の宇宙機、航空機設計における大規模な数値シミュレーション結果を、高精細な3Dモデルとして可視化する技術を蓄積し、得られた研究成果をビジネス分野へ応用する。遠隔地間3Dモデル共有技術の開発にも取り組む。

ソフト会社の特徴を活かした高付加価値化ビジネスの推進

AI、画像認識、ロボットとの連携など、MR単独ではなく、エンジニアリングの視点で取り組む。

普及の鍵はハードウェアの進化と低コスト化

軽量化、低消費電力化、高コストなどハードウェアの課題が多い。

人的資本投資

人間力が持続的成長の源泉

当社は会社理念において「社員の自己実現と会社の存続発展の一致をはかる」ことを目標の一つとして掲げています。ソフトウェアビジネスは人への依存度が極めて高く、社員の質が会社の質を決め、社員の成長が会社の成長につながります。ソフトウェアエンジニアの素養とプロとしての志を持つ優秀な人材を採用し、プロに相応しい挑戦の機会と自ら学び成長する機会を提供することが当社の人材育成の基本方針です。

共同研究「空間特性の可視化」(東京大学 生産技術研究所)

建築物や都市の空間特性をリアルタイムで可視化する空間設計ソフトウェアを開発・公開



東京大学 生産技術研究所の本間 裕大 准教授と、数理最適化手法を用いて人々の動きや交流のパターンが及ぼす影響を評価・予測し、建築・都市空間の設計を支援するシステムの開発を共同で行っています。

その成果の一つとして、建築空間や都市空間において、「人々の交流が生まれやすいホットスポット」の場所を、色の濃淡としてリアルタイムに可視化するソフトウェア「Convex Space Visualizer」を、2022年9月14日より無償公開しました。これまで感性に頼らざるを得なかった空間設計において、定量的な可視化を可能とし、ゲームチェンジャーとなる可能性を秘めています。

(2022年9月14日 当社ニュースリリース : https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20220912531508/pdfFile.pdf)

2024年3月期

今期業績見通し

2024年3月期業績見通し

さらなる成長への投資を優先し、利益は微増の計画

	2023年3月期実績(百万円)	2024年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	7,488	7,750	103.5
売上原価	5,246	5,490	104.6
売上総利益	2,241	2,260	100.8
販売管理費	1,026	1,030	100.4
営業利益 (営業利益率)	1,215 (16.2%)	1,230 (15.9%)	101.2
経常利益 (経常利益率)	1,278 (17.1%)	1,290 (16.6%)	100.9
当期純利益	878	895	101.8

売上高 新型コロナウイルス感染症の影響が薄れていく「有事」から「平時」に変遷する時代にあたり、官公庁主体の社会基盤分野のビジネスを中心に推進し、前期比約4%増を見込む

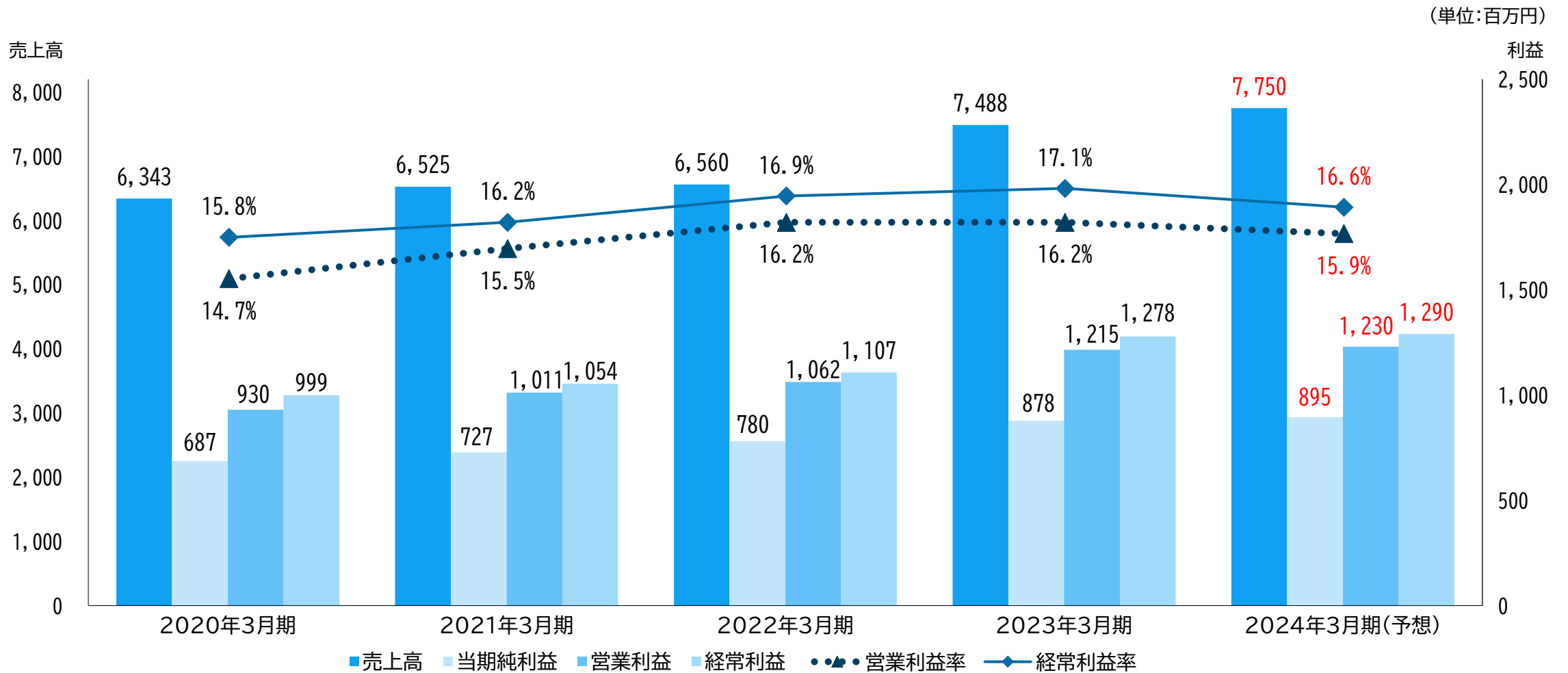
売上原価 社員数増加や待遇向上による人件費の増加、外注費の増加などにより、増加を見込む

販売管理費 研究開発の増加などにより、微増を見込む

営業外損益 前期並みを見込む





通期業績の推移

7期連続の増収増益を目指す



2024年3月期BF別業績見通し

モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想
モバイルネットワーク	XR(クロスリアリティ)関連の開発やスマートコンストラクション関連の開発が引き続き堅調で、増加	
インターネット	非接触ICを利用した開発は継続するが、他のBFとの人員配分の最適化により、減少	
社会基盤システム	環境分野を中心とした官公庁向けの開発が引き続き堅調で、増加	
宇宙先端システム	宇宙関連の開発は堅調だが、サービスロボット関連の大型開発案件の計画変動が予想されるため、微増	

サステナビリティ への取り組み

持続可能な社会の実現のために



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

当社は、ソフトウェア開発の事業活動を通して社会課題の解決に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献することをサステナビリティ推進の考え方としています。

社会課題を起点とした事業機会創出にも取り組むことで、より一層 SDGs の達成に貢献していきます。



環境



JQA-EM1216

セックは2000年12月に環境マネジメントシステム(ISO 14001)の認証を取得しました。

以来、「地球資源が有限であることを認識し、環境の保全に永続的に配慮する」ことを会社方針とし、企業活動と地球環境の調和を目指して、全社員が環境問題に積極的に取り組んでいます。



社会

研究開発

私たちの生活を安全、安心、快適にし、環境負荷をも軽減する「ユビキタス」をテーマに取り組んでいます。

人材育成

プロに相応しい挑戦の機会と魅力ある待遇を提供。

ソフトウェア教育・リスキリング支援

学校や企業、自治体に教育プログラムを提供。

次世代育成支援

子育てサポート企業として、「くるみん認定」を取得



ガバナンス

コーポレートガバナンス

審議に十分な時間をかけた取締役会を開催することと、監査等委員会監査と内部監査による経営チェック機能の充実を重視しています。透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行う仕組みを構築・維持・改善し、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいます。

コンプライアンス

「法および社会規範を遵守」することを会社理念の行動規準に定め、社員と共有しています。

スペースサステナビリティ(持続可能な宇宙開発)

ADRAS-Jパートナーシップに参加

宇宙空間には、運用を終えた人工衛星や、故障した人工衛星、打ち上げられたロケットの残骸など、地上から制御することのできない人工物が無数に存在しています。これらスペースデブリ(宇宙ごみ)は、運用中の宇宙機の故障の要因になったり、今後打ち上げられる宇宙機の活動を妨げることになり、今後の宇宙開発の脅威となる可能性があります。

セックはアストロスケール社と、スペースデブリ除去技術の実証衛星である「ADRAS-J(アドラスジェー、Active Debris Removal by Astroscale-Japanの略)に関するパートナーシップ契約を、2022年8月に締結しました。パートナーシップを通して、宇宙開発、ひいては地球環境の保護と持続可能な開発の実現に、貢献してまいります。

(2022年8月3日 当社ニュースリリース:https://www.sec.co.jp/ja/ir/news/auto_20220801509403/pdfFile.pdf)



ソフトウェア教育支援

中高生向け 会社見学プログラムを開催

2022年7月11日、中高生を対象とした会社見学プログラムを開催しました。中高生のキャリア形成・キャリア教育支援を目的に開催したもので、当社オフィスの見学、エンジニアとの交流会、技術体験などを実施しました。



参加してくれた、立教池袋中学校・高等学校の数理研究部の皆さん。



MR(Mixed Reality)を体験。エンジニアから直接、技術的なレクチャーを受けました。



エンジニアとの交流会。



ロボットアームの操作体験。



研究企画室・室長によるエンジニア講演「宇宙開発と私」。

ソフトウェア教育支援

3rd Kibo Robot Programming Challenge



「きぼう」ロボットプログラミングチャレンジ(Kibo-RPC: Kibo Robot Programming Challenge)は、国際宇宙ステーション内のドローンロボットを動かすプログラムを開発し、与えられた課題を解決する速さと正確性を競う、学生向けの国際的なプログラミング競技会です。当社は2019年から、競技会用プラットフォームやポータルサイトの開発と運用、予選会の支援業務にも従事しています。

10月29日に第3回大会の軌道上決勝大会が開催され、各国予選会を勝ち上がった10チームが参加しました。

中高生向けAI教育

中高生向けAIプログラミング講座(2022年9月～10月、東京都教育委員会・東京スポーツ文化館主催)に、講師および企画・実施で協力しました。プログラミングをしながらAIについて学ぶ体験を通して、中高生が好奇心を育み、深く探求する力を身に付ける機会としてもらうことを目指しました。

日程	全5回
1	2022.9.11 日 13:00～17:00
2	2022.9.25 日 13:00～17:00
3	2022.10.2 日 13:00～17:00
4	2022.10.9 日 13:00～17:00
5	2022.10.16 日 10:00～17:00

対象: AIを学びたい中高生(全日程参加出来ること)
定員: 15名
形式: 自習室での研修(1,5日)およびオンライン(2,3,4日)
参加費: 無料 ※交通費、実習時に、通信機器の通信費等は自己負担

講座概要

- 1 AIを学ぶ意義
- 2 プログラミングでAIを作ります
- 3 AIが社会をより良くする力になる

世田谷ITカレッジ(リスキリング・就業支援)

セックは世田谷区と協定を締結し、IT系職種での就業を目指す世田谷区民の方の就業支援を実施しています。

「世田谷ITカレッジ」は、成長産業であるIT業界へのキャリアチェンジを支援することを目的として2022年5月に開校しました。ICTの基礎技術からプログラミング、システム開発演習まで幅広い講座を開講し、受講者の方のリスキリングや就業支援に取り組んでいます。

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況

プライム市場の上場維持基準に適合

当社は、2021年12月10日に「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」を提出しております。移行基準日(2021年6月30日)時点においては、プライム市場の上場維持基準の内、「流通株式時価総額」について基準を充たしておりませんでした。計画書に基づき改善を実施してきた結果、2023年3月31日時点において、プライム市場の上場維持基準の全ての項目に適合いたしました。

今後も引き続き、継続的な事業成長とIR活動の強化に取り組み、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

流通株式時価総額

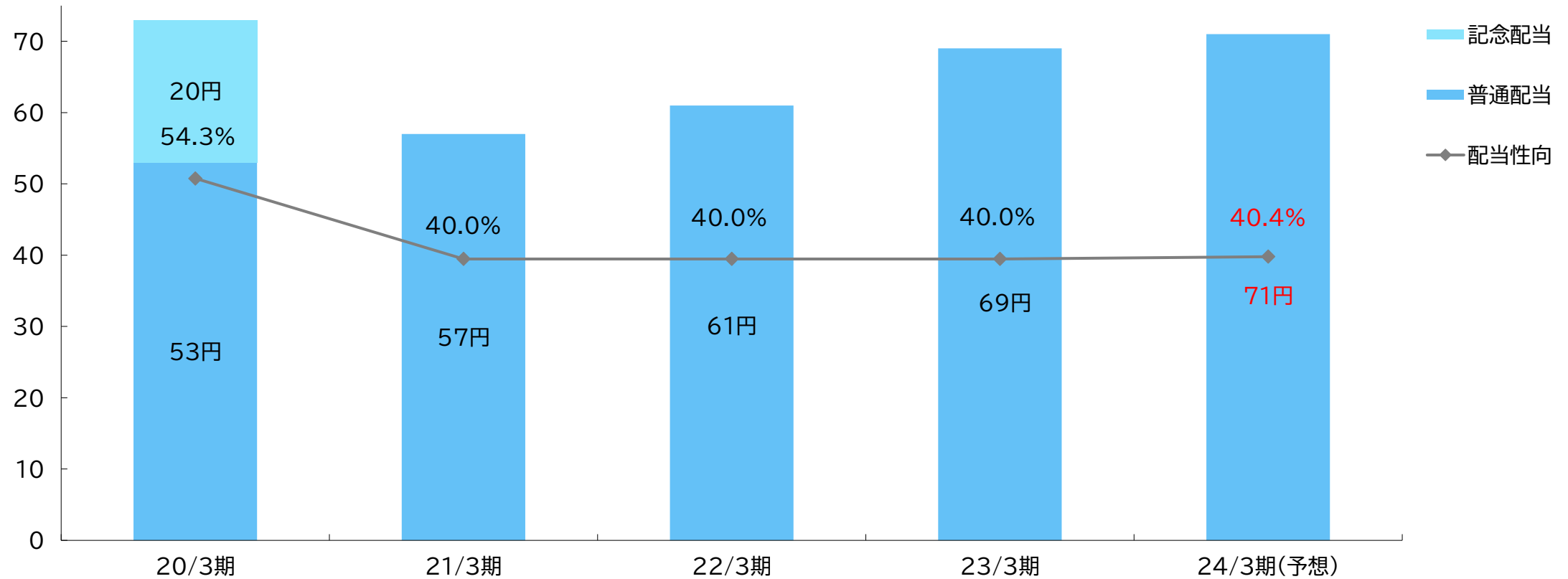
当社の適合状況及びその推移	2021年6月30日時点(移行基準日時点)	85.3億円
	2023年3月31日時点	101.8億円
上場維持基準(プライム市場)		100億円
2023年3月31日時点の適合状況		適合
当初の計画に記載した計画期間		2025年3月末

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2024年3月期は1株当たり71円の配当予想とする。

(単位:円)



ご参考: ニュースリリース一覧(2022年11月~2023年5月)

2022年		2月27日	<u>「アイアールmagazineオンライン」に当社社長インタビュー記事掲載</u>
11月 1日	一般社団法人 スマートシティ社会実装コンソーシアムに加盟	3月 6日	<u>日本オペレーションズ・リサーチ学会にて東京大学と共同で数理最適化問題に関する研究発表を実施</u>
11月30日	ストックボイス「東京マーケットワイド」(2022年11月30日放送)に代表取締役社長 櫻井が出演	3月 6日	<u>日本テクノセンター主催「ROSの基礎とロボットソフトウェア開発のポイント」の講師を担当</u>
12月 5日	<u>計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2022)にてMR技術とロボットアームの連係に関する論文発表</u>	3月15日	<u>NTTコノキューの遠隔作業支援ソリューション「NTT XR Real Support」の開発に協力</u>
12月17日	ラジオNIKKEI・プロネクサス共催「企業IR&個人投資家応援イベント in 東京」にて企業IRセミナーを開催	3月23日	<u>大阪事業所を移転 (移転日:2023年4月1日)</u>
2023年		3月30日	<u>世田谷区での若者の社会参加支援および就業支援活動のご報告</u>
1月16日	<u>ロボデックス(ロボット開発・活用展) 出展</u>	5月 1日	<u>週刊現代(5月1日発売号) 特集「これから世界で勝てる日本の企業「ベスト100」」に掲載</u>
1月18日	<u>日経CNBC「~攻めのIR~Market Breakthrough」(2023年1月18日放送)に代表取締役社長 櫻井が出演</u>	5月 8日	<u>量子コンピューティング EXPOにて研究成果を展示</u>
2月 9日	<u>法人向けeラーニングサービス「gacco for Biz」にDX人材育成講座を提供</u>	5月 8日	一般社団法人 クロスユ- (宇宙ビジネス共創プラットフォーム)に加盟
2月18日	ラジオNIKKEI・プロネクサス共催「企業IR&個人投資家応援イベント in 名古屋」にて企業IRセミナーを開催	5月 9日	<u>「2023年度 第1期 世田谷ITカレッジ」を開講</u>
2月22日	ラジオNIKKEI「ザ・マネー」(2023年2月21日放送)に代表取締役社長 櫻井が出演	5月15日	<u>第4回「きぼう」ロボットプログラミングチャレンジに協賛</u>
		5月16日	<u>産総研の自動配送ロボット向け運行管理システムの開発に協力</u>

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。